かけはし

会報99号　発行:特定非営利活動法人全国LD親の会　　発行人:井上　育世
事務局:〒 151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

特定非営利活動法人 JPALD 全国LD親の会

第 23 回公開フォーラム　報告

テーマ:
「成年期以降の課題 生涯にわたっての支援をつなぐ」
日 時 :2024 年 6 月 16 日(日) 9:40~15:40
会 場 : 北海道立道民活動センター かでる 2.7
共 催 : 北海道クローバー・ぽてとの会・ダビンチの会・ぷりずむ
参加者数:会場参加92名・オンライン参加申込324名

対面開催とオンライン配信のハイブリッドで開催しました。6 月 29 日~8 月 12 日まで録画配信し、多くの方に視聴していただくことができました。

【基調講演】
「成年期以降をどう生きるか,そして見守り支えるか」
田中康雄氏(こころとそだちのクリニックむすびめ院長・北海道大学名誉教授)

児童精神科医のお立場から、これまでの長いご経験をもとに「親の持つ不安」と、当事者本人の「自立に向けて感じている生きづらさ」を整理しながら、今後の課題についてお話しいただきました。ポイントは「保護者から当事者主体へ」・・・親の希望と子どもの願いの違いを知ることが大切とのことでした。

【行政説明】「発達障害施策の最近の動向」
西尾大輔氏(厚生労働省 発達障害対策専門官)

厚生労働省の取り組みの中から、発達障害に特化した様々な施策について解説していただきました。発達障害から「ひきこもり」「家族支援・ペアレントメンター」「就労」「生活困窮」等、様々な課題に関わる施策について情報提供がありました。

【パネルディスカッション】
話題提供①「地域生活を支え合うために」
山本彩氏(札幌学院大学心理学部教授)

ご自身の多彩な経歴から見えてきた、発達障害児・者の支援について「今でもこんな課題がある」と明確な問題提起とともに、良い実践が進んでいる現状についてお話しいただきました。キーワードは「本人が人を嫌いにならないこと」・・・支援機関と本人の主体的な関わりを育むことが大切だと感じました。

話題提供②「2010 年からのチャレンジ、発達障害をもつ子ども達の幸せへの道すじ」
永瀬次郎氏(NPO 法人クローバー 理事長)

プロジェクト事業開始の2010年当時のアンケート「親亡き後」に関する質問「一人で生活できるか?」には「今はできないがその時は可能」との回答が多数あった。その実現に向け「適切な支援」「本人に合った支援」「練習の必要性」「本人の自立意識」に繋げるための取り組みを現在も進めているとのお話でした。

話題提供③
「親の会で見えてきた成年期支援の課題を考える」
赤塚美枝氏(NPO 法人ぷりずむ 理事長)

学齢期を過ぎると支援が途切れがちとなる。学齢期から成人期にかけて相談支援をどう繋げていくのかが課題。本人が望まない場合の対応が難しい。制度の仕組みが地域の中で見えずわかりにくい等の課題があり、親の会として親同士の繋がりが大切であるとのお話でした。

【指定討論】

コーディネーターの田中康雄先生に課題を整理していただき、議論を深めることができました。登壇者同士の長年にわたる信頼関係と温かなつながりが感じられるパネルディスカッションとなりました。

全国LD親の会の総会・公開フォーラムを北海道で初めて開催することができました。北海道ブロックの皆様、たいへんお世話になり、ありがとうございました。

第23回公開フォーラムは、朝日新聞厚生文化事業団「『発達障がい』とともに生きる 豊かな地域生活応援助成」の助成を受け開催しました。

第17回総会 報告

日 時 ：2024年6月15日（土） 13:30～15:00
会 場 ： 北海道立道民活動センター かでる2.7
開催方法：対面開催&リアル配信 （ハイブリッド）
正会員総数：35団体
出席者数：34団体（出席：31団体、議決権行使書：2団体、委任状：1団体） 欠席数：1団体

第1号議案～第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。
【審議事項】
第 1 号議案 2023年度事業報告
第 2 号議案 2023年度決算報告および監査報告
第 3 号議案 2024年度役員選任

役員研修会 報告

6 月15日（土）総会終了後、「災害への備え」とのテーマで研修会を開催し、62名の参加がありました。（会場参加20名・オンライン参加42名）

1 月の能登半島地震では、北陸の親の会会員も被災されました。今回の研修会では、小林理事（富山ゆうの会）より現地の被害状況や会員の実体験等、リアルなお話を伺いました。続いて、臼井晶子氏（アップカルチャースクール スクールマネージャー）より、「緊急時に備える！ ICT を有効に活用するために」とのテーマで、防災情報アプリや災害伝言ダイヤル等について詳しく教えていただきました。

事前に「災害時の安否確認をどうするのか」等、家族で話し合い、家族全員が防災アプリを使いこなせるよう練習するなど、定期的に「デジタル避難訓練」をすることが大切とのことでした。災害時、スマートフォンは情報を得るための生命線であり、スマホの防水対策やモバイルバッテリーを充電しておくなど、具体的な備えが必要だと改めて痛感しました。レクチャーを受けた後、グループに分かれて災害への備えについて話し合いました。

<参加者の感想>
・いろいろな地域の方と話して、地域差をひしひしと感じました。特性のある子たちならではの災害時の悩みや不安について対策を考え合えて良かったです。
・困っていることを「迷惑をかける」ではなく「安心して被災できるようにしてほしい」という言葉に共感しました。

青年交流会「オンラインで北海道・小樽へ」 報告

日時 ： 2024年9月14日（土）19:00～21:15
（オンライン開催）

小樽は「運河の街」として有名な観光地です。今回は「ゴールデンカムイの舞台（小樽の歴史観光）」「小樽総合博物館（小樽の鉄道資料）」をテーマに、小樽の観光名所や名物・歴史について、画像を見ながら紹介していただきました。漫画「ゴールデンカムイ」の舞台となった名所を漫画のカットと現地の写真と並べて説明され、「聖地巡礼」をしている気分でした(参加者は、小樽から事前に送られた名物のお菓子をつまみながら視聴しました)。

参加された青年が偶然、同世代ということもあり、趣味の旅行の話や仕事の話題で盛り上がりました。参加してくれたK君は、前回のオンライン交流会(横浜)にも参加してくれ、「コミュニケーションが苦手だけど、前回、オンライン交流会に参加して楽しかったので、それ以来、普段からオンラインコミュニティに参加しています」と話してくれました。青年たちは「コミュニケーションが苦手」と言いながらも、話題が豊富で時事問題にも詳しく、トークが盛り上がり、終了予定時刻を15分超過して終了しました。

今後も定期的に全国の青年が交流できる機会を増やしていきたいと考えています。

一般社団法人 日本LD学会第33回大会 報告

日時 ： 2024年10月19日（土）～20日（日）
会場 ： 神戸国際会議場／神戸国際展示場
＋ オンデマンド配信
大会テーマ ： Face to Faceの関係構築・地域づくり
ー地方・地域のGood Practiceをもとに
日本のLD支援とLD研究を一歩進めよう!ー
大会会長 ： 松本秀彦氏（高知大学）

10月19～20日 神戸国際会議場・神戸国際展示場にて日本LD学会第33回大会が開催されました。2日間にわたり、特別講演・大会企画シンポジウム等17講座、自主シンポジウム55講座が開催され、ポスター発表121件が展示されました（大会企画シンポジウム・教育講演等40講座は12月1日までオンデマンド配信）。

全国LD親の会は、「子どもと家族を真ん中にした支援を考える ～縦と横につなぐ関係作りのために～」をテーマとしたシンポジウムを開催し、全国各地の親の会の活動を紹介するポスターも展示しました。模造紙のポスターだけでなく、プロジェクターで活動紹介のスライドも映写しました。

今大会はコロナ禍以前の賑わいが戻ったようで、親の会の控室にも多くの方が集い、全国各地の仲間や先生方とまさに今大会のメインテーマにもある“Face to Face”で交流することができました。

親の会企画シンポジウム

テーマ ： 子どもと家族を真ん中にした支援を考える
～縦と横につなぐ関係作りのために～

【企画趣旨】

2018年度に始まった「トライアングルプロジェクト」により「各地方自治体の教育委員会や福祉部局が主導し、支援が必要な子供やその保護者が、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまで、地域で切れ目なく支援が受けられるよう」家庭と教育と福祉の連携が図られてきました。

子育て世帯に対する包括的な支援体制の中で、発達障害児とその家族に対してもニーズに合った支援が乳幼児期から切れ目なく提供されるためには、地域の大きさによって、連携の範囲、各連携機関の情報共有方法も異なってきます。ますます各地域での取り組みが求められる中にあって、face to faceの関係で一人の子どもとその家庭に対して支援の連携を作っていく実践について考える機会とします。

話題提供1：
「地域での連携のために一般医療機関ができること」
竹内章人氏（岡山医療センター小児神経内科医師）

竹内先生は積極的に地域や学校とつながられ、親の会もご支援をいただいています。「学校に診断と検査結果だけを伝えても支援は進まない」という現状から、子どものアセスメント結果と具体的な支援内容を手紙にして詳しく伝えておられるとのことでした。「いずれは、この長い手紙が要らなくなる地域にしたい」という先生の熱意を感じて頭が下がりました。また「支援の主役は病院ではなく、教育や福祉そして家族」という言葉が印象的でした。

話題提供2：
「学校と保護者の関係作り～高知の事例より～」
（教育現場と本人・家庭の連携を縦横につなぐ）
武政めぐみ（NPO法人全国LD親の会）

保護者の立場から「学校と保護者の関係作り～高知の事例より～」というテーマでお話しました。学校と保護者が良い関係性を築いていくためには、双方が子どもの特性について理解し、問題となっている事を共有し、連携していく事が大切です。なかなか親の思いが伝わりにくく、何度も心が折れそうになることもあるけれど、絶対に諦めずに前を向いて進むこと!などを伝えさせていただきました。親の会では会員同士の経験を共有したり、行政とも連携し、切れ目のない支援を求め、縦と横の関係作りに奮闘しています。

指定討論：高畑英樹氏（社会福祉法人陽気会、地域連携室カンファレンス・ カウンセリング室長）

指定討論では、高畑英樹先生より多職種との連携についてもお話しいただきました。連携していくための工夫など活発に意見交換しました。「できないと言ったら支援はストップしてしまう。どうしたらできるかを考える」「信頼関係を築くためにはお互いをリスペクトすることが大切」という言葉が印象的でした。

これから、より多職種間の連携、組織としての関係性の構築が進んでいくことを期待しています。

GIGA端末活用講座 報告

日 時 ： 2024年6月22日（土）　37名参加
テーマ ：「多様な学びを探しに行こう
第1回 OneNoteの使い方」
講 師 ： 宮﨑舞さん（カラフルバード）

GIGA端末活用講座は、学校で使用しているGIGA端末を自分の学び方に合わせて文房具のように使うことを目指した、会員のお子さん向けの講座です。今回はOneNoteというデジタルでノートをとることができるアプリの基本的な使い方や、学校や家庭での学習に活用する具体的な方法を学びました。参加者から「実際に使っているところを見ながら一緒にやれるので、わかりやすかった」という声がありました。

良いアプリの情報はネットを見ればいくらでも見つかりますが、実際に使っている方からお話を聞いたり、みんなで一緒に体験したりするほうが身に付きやすいです。今後は講座だけではわかりにくかった部分や、使っていくうちに出てくる疑問等もフォローしていけるようにしていきたいです。学校にお任せするだけでは、なかなか活用は進みません。家庭でお子さんと一緒に使い方を考えて試してみるのが一番です。そのためには、保護者も日常生活の中でスマホやタブレットを活用してみてはいかがでしょう？OneNoteは、学校からの配布物の管理、レシピノート、レシートの整理などにも便利に使えます。お子さんと一緒に楽しみながら使ってみてください。

音声教材 BEAM 学習会 報告

日 時：2024年9月22日（日）　19名参加
講 師：認定NPO法人エッジ 藤堂栄子さん 鴨井静さん
中嶋幸子さん

音声教材 BEAM について、小学校中学年から中学生の本人に向けて理解しやすいようお話していただきました。ディスレクシア当事者の藤堂先生親子の体験談やディスレクシア（読むことに困難）って、そもそもどんな状態を指すのか？疑似体験や読みのメカニズムを知ることでどうしたら学びやすくなるのかなどの説明がありました。音声教材 BEAM は音だけで提供されています。確かにいろいろな機能のある音声教材は便利なようですが、情報がありすぎて理解しづらくなる子も少なくなく、オーディオブックを聞くように内容理解することが大切ということでした。

音だけだからこそ、文脈にあった読み方に間の入れ方も直されていて自然でわかりやすくなっていました。音声教材 BEAM の具体的な活用方法や申請の仕方に加え、音声教材 BEAM と小学校国語業者テスト（光文書院1～6年生）を使った読み上げ合理的配慮の仕方についての解説もありました。光文書院のテスト上の引用文のところは BEAM 申請することで利用できるそうです。参加者からは擬似体験を通して「息子の苦しみに愕然としました」「親の自己肯定感も高められました」「目から鱗の言葉もあり、聞けて良かったです」との感想が寄せられました。学習会の動画は10月末まで1ヶ月間配信しました。

オンライン音声教材学習会 報告

【保護者対象】
日時：2024年7月14日（日）10:00～11:30
対象：全国LD親の会の会員　27名参加
講師：風早史子氏
（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）

様々な音声教材の内容とその申請方法等について紹介していただきました。音声教材サンプルとして公開されている、マルチメディアデイジー形式、DOCX形式、EPUB形式のファイルを使って、どんなポイントを押さえて使うことができるのか、一緒に操作体験しました。

【本人対象】
日時：2024年8月18日（日）10:00～11:30
対象：中学生・高校生本人および保護者 22名参加
講師：風早史子氏

音声教材の利用の仕方やワンノートのノートテイクの仕方など便利な機能、 WindowsとMacOSの各システムにおける使い方の違いについてご紹介いただきました。

10月27日 音声教材学習会の録画配信を行いました。
12月1日にも同じ内容を再配信する予定です。

オンライン行政勉強会 報告

第 1 回 「R6年度障害福祉サービス等報酬改定による放課後等デイサービスの変化」
講師：日詰正文氏（JDDnet 事務局長／元・厚生労働省 発達障害対策専門官）
2024 年 7 月 28 日（日） 48 名参加

JDDnet は、厚労省「障害児通所支援のあり方に関する検討会」等に委員として参加しており、これまでの議論を重ねてきた過程について詳しく説明していただきました。今回の報酬改定で「時間区分で短時間の利用ができなくなった」等の不安の声も聞かれますが、日詰先生のお話から、放課後等デイサービスの利用者は大きく増加しており、限られた予算の中で事業を維持するため、専門性のある事業所が評価されるように報酬改定がなされたことが理解できました。

質疑応答の際には先生からのアドバイスに加え、参加された会員さんの中に、相談支援員や放デイの職員の方、放デイを利用している方がみえ、それぞれの立場からリアルな実体験をお聞きし、意見交換をすることができました。

第 2 回 「不登校に関する文部科学省の調査結果と支援の考え方」
講師：笹森洋樹氏（常葉大学 教育学部教授）
2024 年 9 月 17 日(火) 34名参加
（特例として、9月 29 日に録画配信 53名参加）

笹森先生から、不登校の子どもの置かれている状況や子どもの心理や対応について丁寧に説明していただきました。子どもの気持ちがネガティブな思いであっても「正直に出してくれた」と受け止めること。子どもを励ますつもりで「そんなことはないと思うよ」と言ってしまいがちですが、それは子どもにとって「否定」にあたること等、新たな気づきがありました。不登校支援のポイントとして「居場所作り・相談できる人・学習支援」の 3 つをあげられました。また、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLO プラン」についても説明していただきました。親の会にも不登校の相談が多く寄せられています。子ども達への支援について一緒に考えていきましょう。

オンライン各会役員交流会 報告

全国各地の役員が、活動についての相談や情報交換ができるよう「オンライン各会役員交流会」を定期的（偶数月）に開催しています。

○ 第1回役員交流会 4 月 20 日（土）17 名参加

2022 年度から始まった「役員交流会」も第 10 回目となりました。3グループ（ブレイクアウトルーム）に分かれて、新年度の会員更新手続きや年間計画等についての情報交換や、各会の会員減少や役員体制の悩みなどの課題について話し合いました。広域通信制高校やクローズ就労などについても話題にあがりました。

○ 第2回役員交流会 8 月 24 日（土） 33 名参加

今年度は「親の会の組織のあり方を考える交流会」として親の会の課題について、より具体的に検討していきます。「Sustainable な親の会活動は可能か？」をテーマに、6グループに分かれて、主に「次世代に役員を担ってもらうための工夫」や「“わが子のため”から“子ども達の環境を変えるため=親の会の社会的役割”に意識を変えていくための体制作り」について意見交換しました。

グループでの話し合いの後、全体で次のような話題について共有しました。

・SNS（インスタグラム・X・LINE 等）を活用した情報発信
・役員をする楽しさやメリット（得られるもの）をアピール
・「当事者のリアルな声やニーズを発信する」という親の会の意義や社会的役割をアピールしていく 等

○ 第 3 回役員交流会 10 月 26 日（土） 18 名参加

前回に引き続き、親の会の組織や運営について、話し合いました。役員の負担軽減のため、一人一役で順番に役員を担っている会や、事務局担当を複数名担当制にして引き継ぐ等の工夫をしている会もありました。現在はインターネットに情報があふれ、放課後等デイサービスや相談機関などの支援制度も整い、保護者の価値観・ニーズも変わってきています。時代の変化にあわせ、親の会の在り方について考えていきたいと思います。

2024年度 全国会員子どもの構成調査　（正会員35団体の集計）

＜総括表＞

区分	人数					男女比	
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	4	3	7	0.4%	-50.0%	57.1%	42.9%
小学校	149	52	201	12.0%	+5.2%	74.1%	25.9%
中学校	121	40	161	9.6%	-12.0%	75.2%	24.8%
高校相当	145	29	174	10.4%	-4.4%	83.3%	16.7%
高卒相当	884	253	1,137	67.7%	-6.3%	77.7%	22.3%
合計	1,303	377	1,680	100.0%	-5.8%	77.6%	22.4%

＜小学校＞

区分	男	女	計
小1	11	3	14
小2	14	6	20
小3	16	5	21
小4	32	12	44
小5	34	13	47
小6	42	13	55
計	149	52	201

＜小学校＞

種 別	人数	比率	前年対比
通常級(通級利用無し)	66	32.8%	+3.1%
通常級(通級利用有り)	37	18.4%	+12.1%
特別支援学級	88	43.8%	+7.3%
特別支援学校	6	3.0%	+20.0%
その他	4	2.0%	前年から項目変更
未回答	0	0.0%	
計	201	100.0%	+5.2%

上記のうち、フリースクール等に通っている人数　9

＜中学校＞

区分	男	女	計
中1	38	13	51
中2	44	13	57
中3	39	14	53
その他	0	0	0
計	121	40	161

＜中学校＞

種 別	人数	比率	前年対比
通常級(通級利用無し)	72	44.7%	-1.4%
通常級(通級利用有り)	30	18.6%	+42.9%
特別支援学級	46	28.6%	-30.3%
特別支援学校	8	5.0%	-42.9%
その他	2	1.2%	-50.0%
未回答	3	1.9%	+0.0%
計	161	100.0%	-12.0%

上記のうち、フリースクール等に通っている人数　6

＜高校相当＞

区分	男	女	計
高1（高専1年）	55	9	64
高2（高専2年）	46	8	54
高3（高専3年）	26	10	36
単位制高校	14	1	15
その他	3	0	3
就労・在宅等	1	1	2
高校相当計	145	29	174

＜高校卒業相当以上＞

区分	男	女	計
大学・短大	91	23	114
高等専門学校4年～	2	0	2
特別支援学校専攻科	0	0	0
専門学校	19	9	28
就労(一般)(月80h以上)	154	32	186
就労(障害枠)(月80h以上)	293	63	356
パート(一般)(月80h未満)	26	17	43
パート(障害枠)(月80h未満)	23	8	31
職業訓練校・委託訓練	5	3	8
就労移行支援	38	4	42
就労継続支援　A型	30	12	42
就労継続支援　B型	82	37	119
地域活動支援センター	8	2	10
その他(自由業者・内職等)	20	9	29
無職(失業中・主婦等)	81	30	111
不明(記入無し)	12	4	16
高校卒業相当計	884	253	1,137

＜高校生の状況＞

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制		
普通科	27	4	1	35	0	15	2	6	2	8	0	15	115	66.1%
専門学科（商業・工業・農業等）	6	0	1	5	0	0	0	1	0	0	0	0	13	7.5%
総合学科	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	5	2.9%
高等専門学校（1～3年）	2			0									2	1.1%
高等特別支援学校・特別支援学校高等部	28	0	0	0	0	0							28	16.1%
高等専修学校	0	0	0	4	0	1							5	2.9%
専門学校	1	0	0	1	0	0							2	1.1%
フリースクール													0	0.0%
その他													2	1.1%
就労・在宅等													2	1.1%
不明													0	0.0%
計	66	4	2	45	0	17	2	7	2	8	0	17	174	100.0%

高等学校での通級利用	2

	人数	比率
国・公立	83	48.8%
私立	87	51.2%

	人数	比率
単位制以外	134	78.8%
単位制	36	21.2%

	人数	比率
全日制	121	71.2%
定時制	11	6.5%
通信制	38	22.4%

GIGAスクールアンケート報告書のご案内

全国LD親の会では、GIGAスクール構想の1人1台端末の活用状況についてアンケート調査を行い、「保護者から見たGIGAスクール ～1人1台端末等の活用状況調査～報告書」としてまとめました。
（2022年11月～2023年1月にかけて、小中学生・高校生のお子さんをお持ちの会員を対象にWebアンケートを実施し、140名の方から回答をいただきました）

タブレットなど端末の利用状況や学校や家庭での約束事、家庭における心配ごと、宿題や試験時の合理的配慮等についても詳細に調査し、子ども一人ひとりの特性に配慮した端末の活用等、障害種別との関連についても様々な分析を行いました。

また、端末が導入されて良かったことや困っていること、GIGAスクール構想へ期待することなど、保護者のリアルな思いもまとめています。

GIGAスクール構想により配布された1人1台端末が、読み書きに困難を抱える子どもの特性にあわせてより活用されていくよう、この報告書を検討資料としてぜひご活用ください。

A4判 66ページ　2024年6月発行
親の会会員価格 1,000円 ・ 一般価格 1,200円
（送料実費を申し受けます。20冊以上：送料無料）
<注文方法>
・親の会会員の方は、所属会を通じてご注文下さい。
・一般の方は、全国LD親の会HP「出版物」のバナー
もしくは右の二次元バーコード
からお申し込みください。

令和7年度予算要望書を提出しました

令和7年度予算編成について、5月28日付で要望書を文部科学大臣・厚生労働大臣・内閣府特命担当大臣あてに提出しました。（要望書の詳細はHPに公開していますので、ご参照ください。）

文部科学省関係

<重点要望事項>

1. 通常の学級における学級規模を小さくして指導の充実を促進すること
2. 個別最適な学びを保障するための ICT 活用
   通常学級においても、読み書き障害のある発達障害の子どもの特性に応じ、GIGA スクール構想において配布された一人一台端末の読み上げ機能等を積極的に活用すること
3. 共生社会に向けて、障害への理解啓発と適切な指導の推進
4. 家庭と教育と福祉の連携「トライアングルプロジェクト」の推進

<その他の要望事項>

1. 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進を図ること
2. 切れ目のない支援体制整備の一層の推進と指導の充実をはかること
3. ICT 機器の整備を進め、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを確立すること
4. 読書バリアフリーの推進
5. キャリア教育は本人の特性を考慮し、適切な指導を行うこと
6. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策を整備・周知すること

厚生労働省関係

【厚生関係】

<重点要望事項>

1. 専門性の高い福祉人材を安定的に確保すること
2. 発達障害者支援センターの増設および職員を増員すること
3. 乳幼児から成人まで切れ目なく発達障害に対応できる医療機関を拡充すること

<その他の要望事項>

1. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
2. 発達障害者に対する情報支援体制の整備を拡充すること
3. 読書バリアフリーの推進
4. 感覚過敏等により、公共交通機関の利用が困難な発達障害者に対する外出支援を構築すること
5. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策の整備・周知

【労働関係】

<重点要望事項>

1. 発達障害者の雇用を促進すること

<その他の要望事項>

1. 継続して働き続けるための支援を充実すること
2. 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
3. 公的機関における発達障害者の雇用促進
4. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害の研修を充実すること
5. 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること

こども家庭庁関係

<重点要望事項>

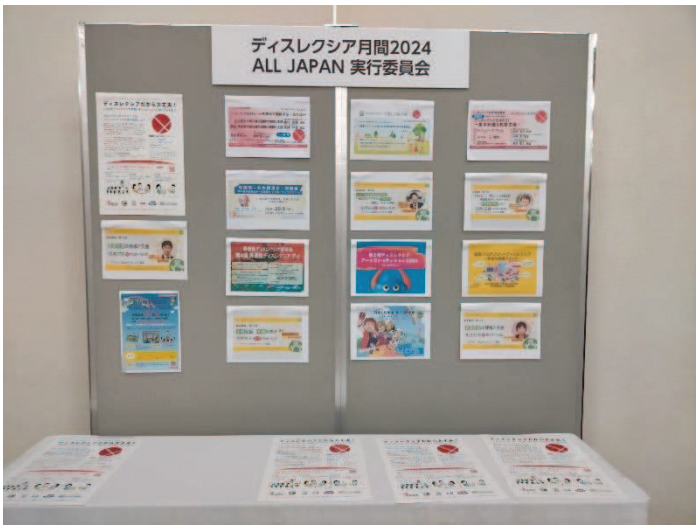
1. 発達支援機関・相談支援機関を拡充すること
2. 乳幼児から発達障害に対応できる医療機関を拡充すること
3. 保育士等への発達障害に関する研修を実施すること

<その他の要望事項>

1. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
2. 発達障害児に対する情報支援体制の整備を拡充すること
3. 感覚過敏等により集団生活が困難な発達障害児に対する理解・支援を推進すること
4. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策の整備・周知

ディスレクシア月間 2024 ALL JAPAN

一人でも多くの方にディスレクシアについて知っていただき、「ディスレクシアだから大丈夫!」と思っていただける社会をめざそうと、日本でLD/ディスレクシアに関連した事業を実施している主要6団体が、毎年10月にいろいろな企画に取り組んでいます。



日本LD学会第33回大会でも、ディスレクシア月間2024 ALL JAPAN実行委員会のブースで、各団体のディスレクシア月間の取り組みを紹介しました。

全国LD親の会では、昨年度同様、地域の公立図書館および学校図書館におけるバリアフリー図書の充実を求めるため、加盟各会に「読書バリアフリー法による情報保障を求める要望書」を公立図書館・学校図書館を管轄する部署宛に提出するお願いをしました。

◆公立図書館・学校図書館共通要望事項

・音声化された図書、ルビがふってある図書、電子化された書籍等（映像を含む）などが利用できる環境を整えてください。

・「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」第二条にあるように、この法律における「視覚障害者等」とは、視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により、書籍について、視覚による表現の認識が困難な者であることなどの啓発活動をおこなってください。

上記項目に加え、公立図書館には

・図書館が所蔵しているバリアフリー図書を地域住民が利用しやすいように、バリアフリー図書について積極的に広報し、バリアフリー図書の具体的な貸出手続きや利用のしかたについての情報提供をしてください。また、電子書籍等の利用や操作のしかたについて、図書館で体験する機会を設けてください。

学校図書館には

・アクセシブルな図書・学習教材等が、求めている児童生徒へすみやかに届くよう「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」を推進してください。

の項目をそれぞれ加えました。

障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるような環境が整うよう、毎年取り組んでいきたいと思います。

東海北陸ブロック交流会 報告

10月12・13日 東海北陸ブロック交流会を開催し、各会から20名ほどが参加しました。お天気にも恵まれさわやかな秋晴れの中、富山県高岡市内観光を楽しみました。1日目は、ゆうの会の方に高岡大仏・雨晴（あまはらし）海岸を案内していただきました。（風光明媚な雨晴海岸も、能登半島豪雨によって大きな流木や様々なが れきが大量に漂着していて、災害の凄まじさを感じました。）

今回、各会から高校生・青年を含め新しいメンバーが参加してくれたことは大きな成果でした。（青年たちも行く先々で写真を撮ってくれたり、荷物を運んだりサポートしてくれました。）氷見の民宿に宿泊し、懇親会を催しました。懇親会が終わった後も夜が更けるまで各会の皆さんといろいろな話題で盛り上がりました。

今年は能登半島地震があり、石川パルの会員さんも被災されました。今年度、北陸での交流会ができるのか悩みましたが、北陸ブロック・富山ゆうの会の皆さんのご尽力で開催することができました。交流会で地震のお話もうかがいましたが、「今年は精神的にきつかった」とお話しされる方もみえました。皆さんと再会できたことが何よりでした。

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（JDDnet）

第20回記念年次大会のご案内

発達障害ネットワーク(JDDnet)は、発達障害関係の全国および地方の障害者団体や親の会、学会・研究会、職能団体などを含めた幅広いネットワークです。

2004年12月に超党派の議員立法により発達障害支援法が成立しました。この法律に基づいた制度や施策の具体化に向けて、2005年NPO法人アスペ・エルデの会、NPO法人えじそんくらぶ、NPO法人EDGE、全国LD親の会、社団法人日本自閉症協会の5団体によって、「日本発達障害ネットワーク」設立準備会が設置されました。

2024年度の年次大会は第20回記念大会です。

◆2024年度 JDDnet 第20回記念年次大会

日 時 ： 2024年12月21日（土） 10:00～16:30

会 場 ： 東京商工会議所 渋沢ホール

東京都千代田区丸の内3-2-2 丸の内二重橋ビル5F

テーマ：「発達障害の今までとこれからの展望
～JDDnet20年のあゆみ～」

参加費 ： 一般 5,000円 / 会員 4,500円

定員：200名（先着順）

対象者：当事者、家族、支援者・専門家、学生、大学の学生相談担当者、企業の人事担当者、発達障害について知りたい一般の方などどなたでもご参加いただけます。

申込方法：下記JDDnetのHPをご覧ください。
https://jddnet.jp/event241221/

申込締切：12月15日（日）

※定員に達した場合はその時点で締め切ります。

プログラム

【記念講演】 市川 宏伸 氏 (JDDnet理事長)
「発達障害の今までとこれからの展望
～JDDnetの意義と課題～」

【シンポジウム①】
「発達障害者支援 多職種連携の意義・専門職の意味」
座長：三澤 一登 氏
（JDDnet副理事長/日本作業療法士協会 副会長）
加藤 永歳 氏
（JDDnet専門委員/東京都手をつなぐ育成会）
〈プレゼンテーション〉
「医師の立場から」「心理師の立場から」「教員の立場から」「作業療法士の立場から」「言語聴覚士の立場から」
〈ディスカッション〉

【シンポジウム②】
「発達障害の理解
～発達障害者支援法をめぐる現状と課題～」
座長：大塚 晃 氏
（JDDnet副理事長/AKAGI社会福祉研究所所長）
〈プレゼンテーション〉
「発達障害者支援法の現状」「発達障害者支援法の課題」「議員連盟の立場から」「厚生労働省の施策」「文部科学省の施策」「こども家庭庁の施策」「都道府県の現状と課題」「当事者の立場から」
〈ディスカッション〉

全国特別支援教育推進連盟 より

「全国特別支援教育推進連盟」は、教育・福祉・労働・医療等関係機関と連携して、特別支援教育の更なる充実を目指している団体です。全国特別支援学校校長会・特別支援学校PTA連合会・当事者団体等が加盟しています。

●令和7年度予算要望書提出
7月9日 加盟団体の要望書を取りまとめて、文部科学省・こども家庭庁を訪問し、要望書を提出しました。

●第46回全国特別支援教育振興協議会
主題 :「インクルーシブ教育システムの充実を目指して」
日時 ：2024年12月6日(金) 9:45～16:00
会場 ： 国立オリンピック記念青少年総合センター

【プログラム】
○ 行政説明（文部科学省・こども家庭庁・国立特別支援教育総合研究所）
○ 令和5年度文部科学省委託事業
発達障害のある児童生徒等に対する支援事業 事業報告
『個別の教育支援計画などを活用した継続した指導実践創出のための調査研究事業』
○ シンポジウム
「ライフステージ移行期における支援の連続性の実現を目指して」
(シンポジスト) 全国肢体不自由児者父母の会連合会、全国LD親の会、企業関係者、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会、全国特別支援学校長会

NPO法人日本障害者協議会（JD）より

2022年8月、国連の障害者権利委員会による障害者権利条約の日本政府報告書に関する対日審査がおこなわれ、障害関連の国内法や政策が条約に含まれる障害の人権モデルと合致していないと指摘され、関連する法制度の基本的な考え方を医学モデルから社会モデル/人権モデルに転換するよう求められました。

障害者権利条約の国際審査は、条約に批准している各国の政府、障害者団体、国内人権機関それぞれの報告と国連の障害者権利委員会によるその評価(総括所見)が、4年ごとに積み重ねられていきます。日本障害者協議会（JD）は、権利委員会のサイトで公開されている各国の審査文書を日本語に訳して、「JD仮訳」としてHPに掲載しています。

https://www.jdnet.gr.jp/report/17_02/170215.html

※引用する場合には、「JD仮訳による」と注記してください。

障害者権利条約の第1条から33条までについての障害者権利委員会による日本政府への懸念と勧告は、合計で懸念93項目、勧告は92項目、留意1項目、奨励1項目でした。特に、19条「自立した生活および地域生活への包容」と24条「教育」には6項目ありますが、日本以外の20か国への総括所見も掲載されています。

各国に対する総括所見を見ると、障害者権利条約が単なる理念にとどまらず、各国のそれぞれ異なる状況における障害施策に対して、人権モデルと障害の社会モデルという貴重なツールを提供しているといえるようです。

【参考】

・第19条（自立生活と地域社会へのインクルージョン）に関する20か国への総括所見
・第24条（教育）に関する20か国への総括所見
・第27条（労働と雇用）に関する20か国への総括所見

是非、一度JD仮訳のページを覗いてみてください。

障害者権利条約に関する書籍のご案内

◆「みんな、知っておこう！ 障害者権利条約 総括所見のポイント解説」

日本障害フォーラム（JDF）が発行した、総括所見の分かりやすい解説冊子。2022年8月、国連の障害者権利委員会で、権利条約の実施に関する日本の初めての審査が開かれました。その委員会から日本へ示された「総括所見」のポイントについて説明されています。

価格：500円 送料別

◆「障害と人権の総合事典」

障害者権利条約をベースに障害分野を横断した歴史的事典。主な目次：障害者権利条約と国連/基本的な理念と視点/差別禁止/災害と障害/意思決定/警察や裁判所などでの人権/障害者福祉と自立/教育/労働・雇用 等

日本障害者協議会：編
発行：やどかり出版
価格：2,970円（税込）送料別

2冊ともに、詳しくは日本障害者協議会（JD）のHPをご覧ください。

全国LD親の会のSNSを開設しました！

全国LD親の会の活動や情報を発信しています。いいね！ やシェアをお願いします。

HP　　Facebook　　Instagram

◆寄付のお願い「全国LD親の会をご支援ください」

NPO法人全国LD親の会は、LDなど発達障害の理解啓発や研究事業、本人・家族への支援事業に取り組んでいます。
活動をより充実させるため、ご支援のほどお願いいたします。

振込先 ： 郵便振替口座：00120-3-52748　特定非営利活動法人全国LD親の会
通信欄に「寄付」とご記入下さい。

◆ 入会案内 会員募集 ！ 機関紙かけはし・メールにて情報提供・ブロック活動へ参加できます。

正会員団体・・・　各地で活動しているLD等の親の会で、全国LD親の会の活動目的に賛同する団体
準会員団体・・・　LD等の親の会で、将来、正会員団体としての入会を目指す団体
個人準会員・・・　全国LD親の会の正会員団体がない県に居住する、発達障害の子どもの保護者の方
賛助会員　・・・　全国LD親の会の活動をサポートしていただける個人ないし団体
賛助会員も、講座やフォーラムに会員価格で参加できます。
（賛助会員の年会費は、個人3,000円・団体5,000円です。）

詳しくはHPをご覧ください（QRコードから入会案内のページがご覧いただけます）

● ご寄付 ありがとうございました

株式会社健康サプリ研究所 様 ・ 特定非営利活動法人光和つくし会 こども支援事業所つくしくらぶ 様

● NPO法人全国LD親の会 活動報告

4月28日 2023年度事業監査
5月28日 2025年度予算要望書（文部科学省・厚生労働省・こども家庭庁）送付
6月15日 第17回総会(札幌)・研修会・懇親会
6月16日 第23回公開フォーラム(札幌)「生涯にわたっての支援をつなぐ」
6月22日 GIGA端末活用講座「多様な学びを探しに行こう」
6月23日 第38回評議員会・第57回理事会
7月09日 全国特別支援教育推進連盟文部科学省・こども家庭庁訪問懇談 予算要望書提出
7月14日 保護者向け音声教材学習会（オンライン）
7月28日 行政勉強会「2024年度報酬改定による放課後等デイサービスの変化について」（オンライン）
8月18日 中学生高校生本人向け音声教材学習会（オンライン）
8月21日-11月11日 特別支援教育支援員養成ビデオ講座
8月24日 各会役員交流会
9月10日 「保護者から見たGIGAスクール～1人1台端末等の活用状況調査～」報告書発行
9月14日 全国青年交流会（小樽）（オンライン）
9月17日 行政勉強会「不登校について」（オンライン）
9月22日 音声教材学習会「音声教材BEAMとBEAM音声を活用したテストの合理的配慮」
10月01日-31日 ディスレクシア月間2024 ALL JAPAN
「読書バリアフリー法による情報保障を求める要望書」提出の取り組み
10月19日-20日 日本LD学会第33回大会参加 親の会ポスター展示・親の会企画シンポジウム
10月26日 各会役員交流会

●第56回理事会報告
開催日：2024年5月6日(月・祝)　19:30～20:00　開催場所：理事長宅　参加者：理事6名
[決議]　1、2024年度活動方針及び予算案　全員一致で同意した
2、第17回通常総会に付議する議案について、全員一致で同意した

●第57回理事会報告
開催日：2024年6月23日(日)　16:00～16:30　開催場所：理事長宅　参加者：理事6名
[決議] NPO法人全国LD親の会 第38回評議員会における審議
第38回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。